外来・入院数

	'92～'93		'93～'94		'94～'95		'95～'96		'96～'97	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来
6 月	12	1,161	72	1,790	91	1,918	137	1,968	113	2,472
7 月	29	1,487	77	2,114	119	2,045	129	2,513	98	2,064
8 月	38	1,318	70	1,802	89	2,033	112	2,363	141	2,351
9 月	53	1,476	72	1,911	112	2,115	138	2,252	126	2,085
10 月	57	1,655	94	2,101	121	2,107	93	1,806	125	2,444
11 月	60	1,382	101	2,028	134	2,003	118	2,297	127	2,323
12 月	49	1,547	68	1,917	65	1,520	113	1,972	81	1,799
1 月	41	1,448	59	1,737	113	1,758	84	1,606	94	1,704
2 月	52	1,796	101	1,925	110	1,959	152	1,960	122	2,087
3 月	69	2,002	100	2,219	113	2,045	82	2,010	141	2,383
4 月	50	1,700	81	1,933	103	1,544	141	2,277	121	2,345
5 月	50	1,508	58	1,599	93	1,977	116	2,286	92	1,963
合計	560	18,480	953	23,076	1,263	23,024	1,415	25,310	1,381	26,017

入　院　数

	'92～'93	'93～'94	'94～'95	'95～'96	'96～'97	合　計
手術入院						
腹腔鏡手術	196	170	148	155	145	814
子宮内容除去術（流産のため）	44	39	49	56	38	226
子宮外妊娠（開腹手術）	1	5	1	1	0	8
子宮外妊娠（腹腔鏡下手術）	1	2	9	8	4	24
子宮筋腫核出術	4	12	10	21	10	57
子宮単純全摘出術	1	10	3	4	4	22
双角子宮形成術	1	0	2	3	1	7
開腹手術（卵巣）	5	5	4	0	0	14
TCR（経頸管子宮筋腫切除術）	0	0	0	0	6	6
バルトリン嚢腫造袋術	0	2	0	1	2	5
卵巣のう腫穿刺	2	21	13	17	18	71
GIFT, ZIFT, TET	24	47	34	20	21	146
泌尿器科手術	7	31	40	34	6	118
その他	1	2	3	4	3	13
合　計	287	346	316	324	258	1,531
安静入院						
卵巣過剰刺激症候群	7	19	24	20	31	101
切迫流産安静	14	8	30	25	23	100
妊娠悪阻	4	4	4	6	3	21
その他	17	6	9	11	7	50
合　計	42	37	67	62	64	272
体外受精入院						
採卵	148	384	540	577	609	2,258
胚移植	116	282	424	485	493	1,800
凍結胚移植	1	5	8	34	56	104
合　計	265	671	972	1,096	1,158	4,162
入院計	**594**	**1,054**	**1,355**	**1,482**	**1,480**	**5,965**

妊　娠　数

		'92～'93	'93～'94	'94～'95	'95～'96	'96～'97	合計
体外受精胚移植	採卵周期	123	254	281	259	299	1,216
	移植周期	92	184	217	228	262	983
	妊娠周期	10(10.9%)	36(19.6%)	59(27.2%)	55(24.1%)	50(19.1%)	212(21.6%)
体外受精卵管内移植	採卵周期	0	9	6	6	3	24
	移植周期	0	7	6	5	3	21
	妊娠周期	0	1(14.3%)	1(16.7%)	0(0%)	0(0%)	2(9.5%)
顕微授精胚移植	採卵周期	0	78	217	253	233	781
	移植周期	0	54	173	228	210	665
	妊娠周期	0	5(9.3%)	20(11.6%)	44(19.3%)	31(14.8%)	100(15 %)
顕微授精卵管内胚移植	採卵周期	0	1	6	3	0	10
	移植周期	0	1	6	3	0	10
	妊娠周期	0	0(0%)	1(16.7%)	2(66.7%)	0	3(30 %)
GIFT(配偶子卵管内移植)	採卵周期	24	37	22	13	10	106
	移植周期	24	36	22	13	10	105
	妊娠周期	5(20.3%)	11(30.6%)	7(31.8%)	4(30.8%)	2(20 %)	29(27.6%)
ZIFT(接合子卵管内移植)	採卵周期	0	0	0	8	8	16
	移植周期	0	0	0	8	8	16
	妊娠周期	0	0	0	1(12.5%)	1(12.5%)	2(12.5%)
凍結融解胚移植	採卵周期	1	5	8	35	56	105
	移植周期	1	5	8	34	56	104
	妊娠周期	0(0%)	0(0%)	1(12.5%)	1(2.9%)	9(16.1%)	11(10.6%)
合　　計	採卵周期	148	384	540	577	609	2,258
	移植周期	117	287	432	519	549	1,904
	妊娠周期	15(12.8%)	53(18.5%)	89(20.6%)	107(20.6%)	93(16.9%)	357(18.8%)

ART以外の妊娠数	169	225	196	241	184	1,015
妊娠総数	184	278	285	348	277	1,372

■外来患者及び妊娠結果

当院の患者数

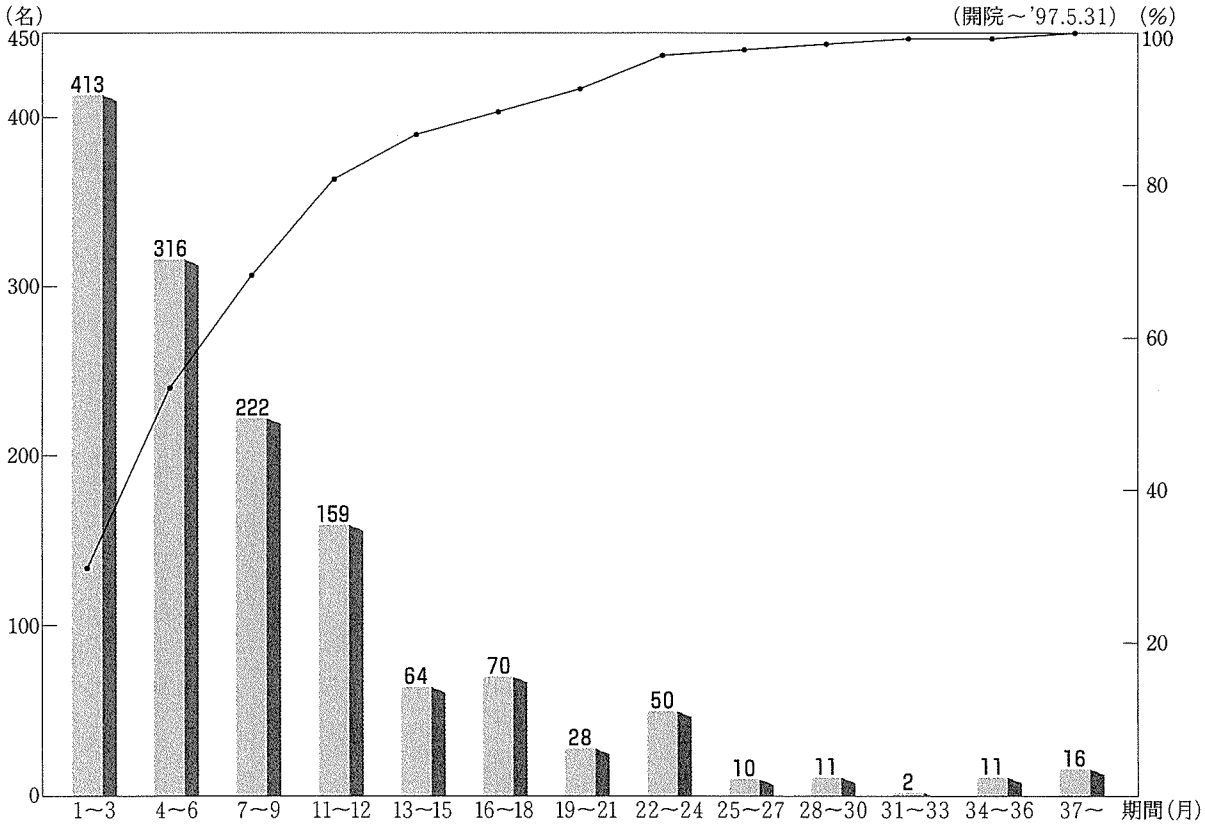
開院（'92. 6. 3）から本年（'97. 5. 31）までの外来患者数

6,184人

男性 1656人（26.8% 平均年齢 34.1才）
正常 626人（37.8%）異常 1030人（62.2%）
女性 4528人（73.2% 平均年齢 31.4才）
●挙児希望の女性 3004人（66.2% 平均年齢 31.4±4.4才）
●妊娠件数 1372件（平均年齢 30.4±3.9才）
●妊娠に至らなかった女性 1765人（平均年齢 31.6±4.7才）

妊娠率（患者あたり） **41.2%** (3004-1756／3004)
妊娠を途中で諦めた女性 **1,269人** (42.5% 平均年齢 31.6±4.8才)
実妊娠率 **71.4%** (3004-1756／3004-1296人)

■初診後妊娠までの期間



妊娠例の80%が初診後1年以内に成立。

■妊娠に至った有効治療（主治療）

ART（全体）	357例	(26.0%)
IVF（体外受精）	212例	(15.5%)
Cryo-ET（凍結胚移植）	11例	(0.8%)
MF（顕微授精）	103例	(7.5%)
ZIFT	2例	(0.1%)
GIFT	29例	(2.1%)
AIH	334例	(24.4%)
ヒューナー	123例	(9.0%)
セロフェン	147例	(10.7%)
HMG-HCG	155例	(11.3%)
HSG直後	47例	(3.4%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	28例	(2.1%)
HCG	29例	(2.1%)
リンパ球免疫療法	14例	(1.0%)
通水	10例	(0.7%)
パーロデル	10例	(0.7%)
自然妊娠	101例	(7.4%)
子宮筋腫核出術後	6例	(0.4%)
その他	11例	(0.8%)
計	1,372例	(100%)

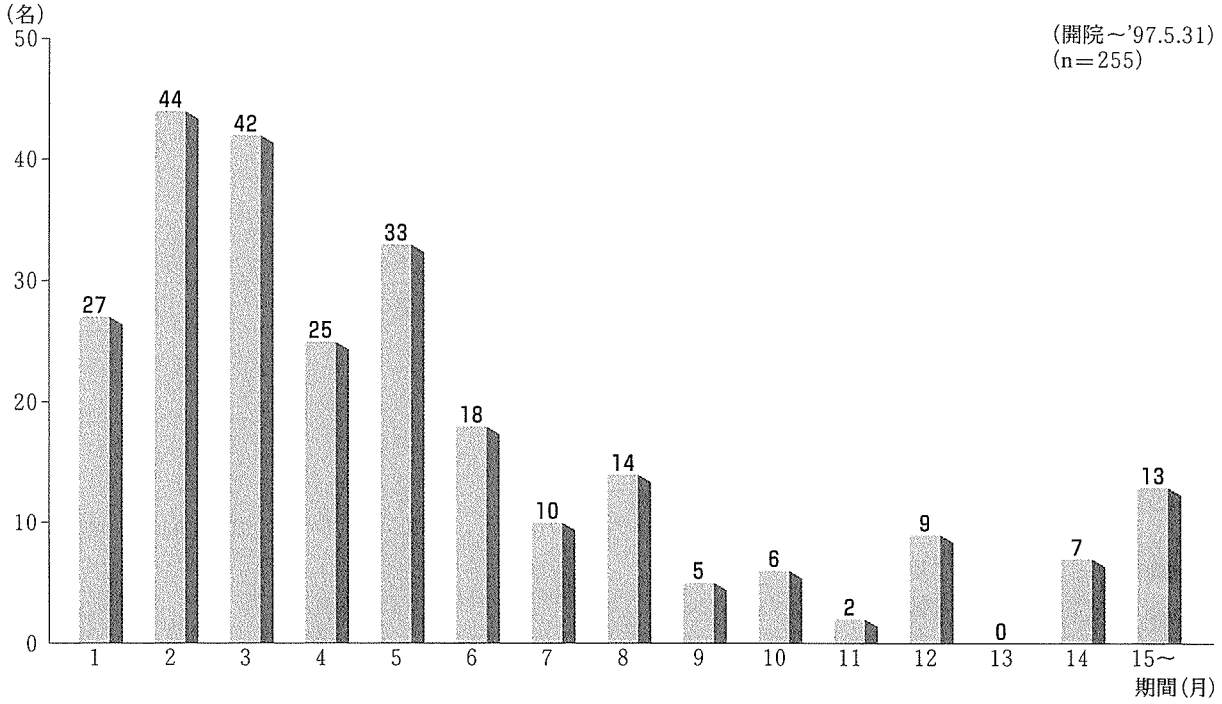
ARTでの妊娠は26%。74%は一般的不妊治療で妊娠した

■妊娠の内訳

他院へ紹介済	972例	(70.8%)
流産	275例	(20.1%)
子宮外妊娠	28例	(2.1%)
胞状奇胎	7例	(0.5%)
不明	56例	(4.1%)
当院で経過観察中	34例	(2.5%)
計	1,372例	(100%)

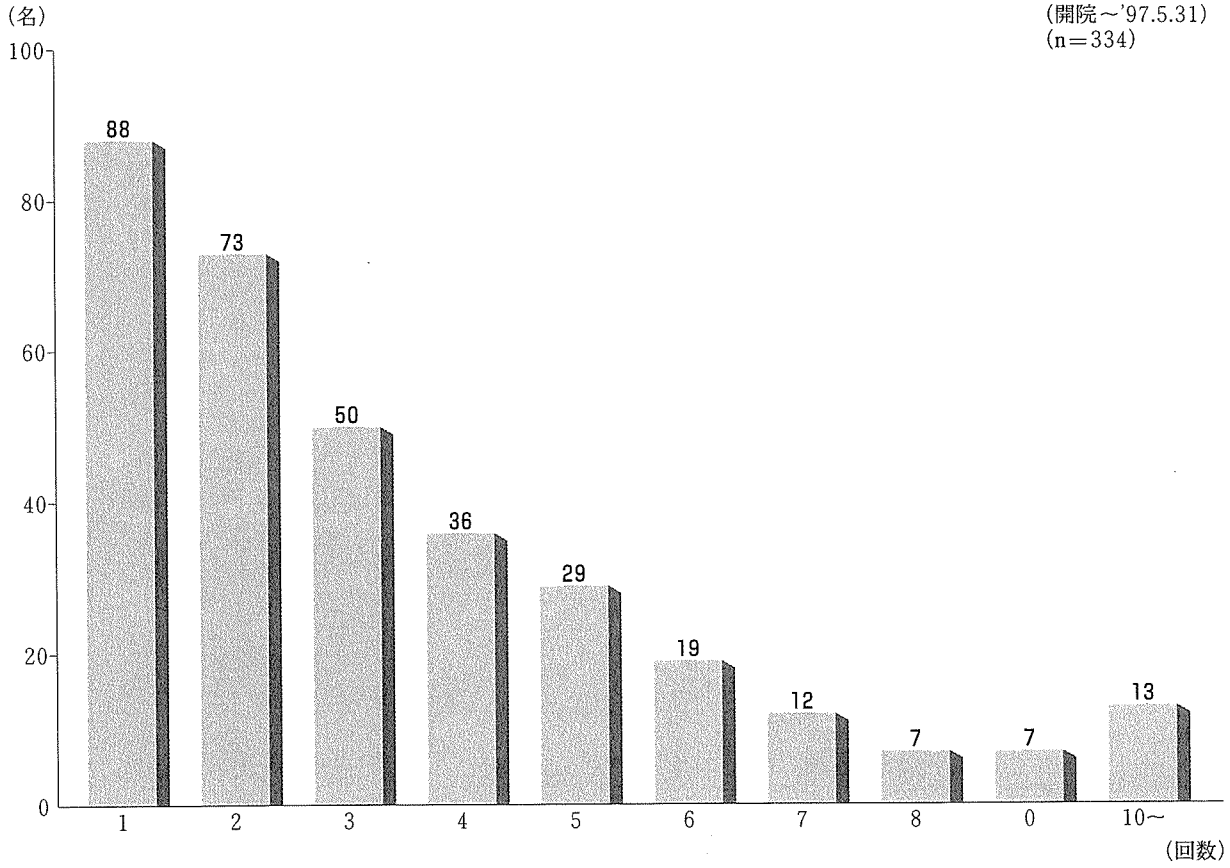
流産が20%とやや多い

■腹腔鏡検査後妊娠までの期間



腹腔鏡後、半年以内に妊娠する例が多い

■人工授精（AIH）による妊娠



AIHは５～６回以内（半年）で成功する例が多い

■ARTによる妊娠

('92. 7 . 27～'97. 5 . 31)

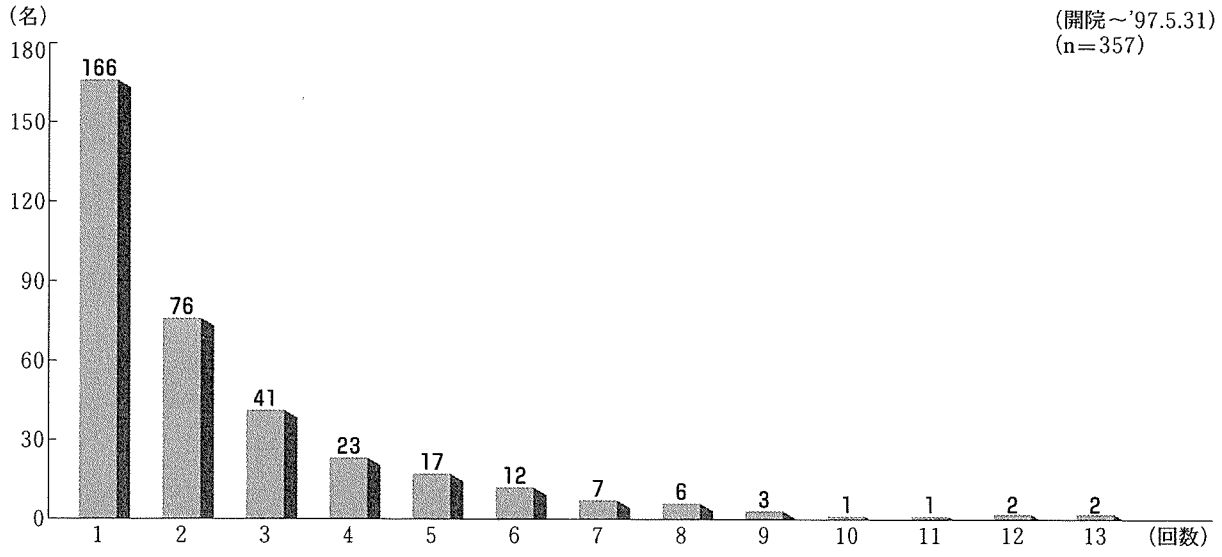
	採卵周期数	胚移植周期数（%）	妊娠周期数（%）	流産周期数（%）
IVF-ET	1,240	1,004 (81.0%)	215 (21.4%)	55 (25.6%)
MF-ET	791	675 (85.3%)	103 (15.3%)	33 (32.0%)
(ICSI)	648	587 (90.1%)	94 (16.0%)	29 (30.9%)
GIFT	106	105 (99.1%)	29 (27.6%)	10 (34.5%)
ZIFT	16	16 (100 %)	2 (12.5%)	1 (50.0%)
CRYO-ET	105	104 (99.0%)	12 (11.5%)	3 (25.0%)
ART.total	2,258	1,904 (84.3%)	361 (16.0%)	102 (28.1%)

■ICSIによる出産および出生児の状況

('94. 9 . 7 ～'97. 5 . 31)

●出産周期　32周期
●出産状況　満期産　27周期
　　早産　5 周期
●出産児数　40児　単胎　25例　25児
　　双胎　6 例　12児
　　品胎　1 例　3 児
●低体重児　14児　(35. 0%)
●異常児　2 児　(5. 0%)　：ダウン症
　　兎唇

■ARTによる妊娠（体外受精・顕微授精・GIFTなど）



研究室の流れ

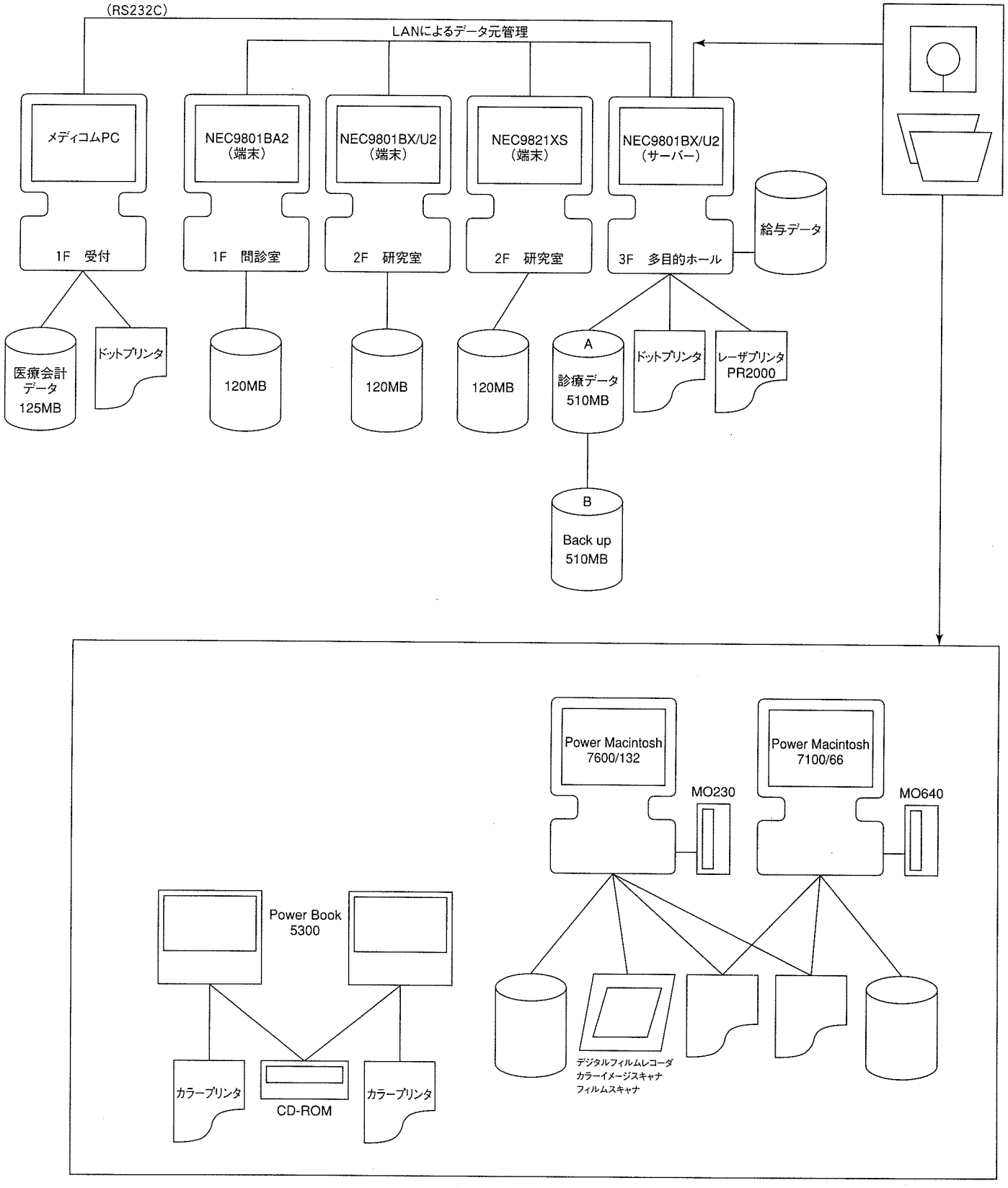
年	月日	行事
1992年	6／3	開院
	6／24	動物による体外受精実験開始
	7／13	動物による体外受精実験終了
	7／27	IVE-ET臨床応用開始
	9／16	GIFT臨床応用開始
	10／1	顕微授精セット設置
	10／6	IVE-ETによる初妊娠
1993年	2／1	ミリQシステム導入
	3／6	凍結胚移植法臨床応用開始
	3／25	GIFTによる初妊娠
	6／10	IVF-ETによる初出産
	7／8	研究室3人体制へ
	8／30	PZDによる顕微授精臨床応用開始
	9／21	ガス自動切り替え装置設置
	10／4	ICSIによる顕微授精臨床応用開始
	10／12	PZDによる初妊娠
	10／22	プログラムフリーザーETI導入
	10／23	SUZIによる顕微授精臨床応用開始
	10／26	「生殖医学の実施登録」日本産科婦人科学会へ報告
	10／27	SUZI-TETの臨床応用開始
	12／02	GIFTでの初出産
1994年	2／4	MESA臨床応用開始
	2／8	ET后の安静時間4時間へ
	2／24	冷凍冷蔵庫設置
	2／25	遠心器設置（2台目）
	3／13	SUZIによる初妊娠
	4／1	研究室4人体制へ
	7／1	凍結胚移植法による初妊娠
	7／7	クリーンベンチ設置（2台目）
	7／25	顕微授精セットに微分干渉装置追加
	9／24	ICSIによる初妊娠
	10／25	「生殖医学の実施登録」日本産科婦人科学会へ報告
	11／10	SUZIによる初出産
	11／14	凍結精子を使用してのICSI臨床応用開始
	11／29	精巣精子を使用してのICSI臨床応用開始
	12／1	研究室改造
	12／20	ICSI-TETの臨床応用開始
1995年	2／1	化学射精精子を使用したICSIによる初妊娠
	2／4	MESA-ICSIによる初妊娠
	2／27	ICSI-TETによる初妊娠
	3／8	PZDによる初出産
	4／10	凍結精子を使用してのICSIによる初妊娠
	5／11	空気殺菌消臭集塵装置設置（3台）
	7／20	ZIFTの臨床応用開始
	10／6	研究室改造
	10／11	化学射精精子を使用したICSIによる初出産

年	月日	行事
1996年	10／24	RESA精子を使用してのICSI臨床応用開始
	10／27	「生殖医学の実施登録」日本産科婦人科学会へ報告
	11／9	RESA精子を使用してのICSIによる初妊娠
	11／14	滅菌手袋パウダーフリー使用開始
	12／15	凍結精子を使用してのICSIによる初妊娠
	12／19	「生殖医学の登録」委員会へ報告
1996年	1／23	体外受精費用改訂（15万円へ）
	2／9	ZIFTによる初妊娠
	2／20	ＳＱＡ導入
	3／1	顕微授精セット設置（２台目）
	4／11	MESA-ICSIによる初妊娠
	5／28	移植胚数を３個に限定
	5／29	研究室５人体制へ
	7／18	RESA-ICISによる初妊娠
	10／1	ART報告書　開始
	10／29	「生殖医学の実施登録」日本産科婦人科学会へ報告
	12／2	「生殖医学の登録」委員会へ報告
1997年	3／5	ＳＱＡ Ⅱ Ｂ導入
	3／14	TESE-ICSIによる初妊娠
	4／1	動物実験室設置
	4／1	研究室６人体制へ

情報処理室
システム開発・運用について

年　月	内　　容	担当業者
1992. 10	システム打ち合わせ	SRL
1992. 11	クリニベース打ち合わせ	ダイヘンテック
1992. 11	メディコム／クリニベース打ち合わせ	SRL
1993. 6	データ管理のデモ使用	ダイヘテック
1993. 9	システム運用開始（診療データ管理システム）	ダイヘテック
1994. 4	統計処理システム開発開始	ダイヘテック
1994. 9	統計処理システム開発開始『クリニスタット』運用開始	ダイヘテック
1994. 10	Power Mac 7100/66 及び周辺機器運用開始	セイコー
1995. 7	新Ver.の統計処理システム開発開始	ダイヘテック
1995. 9	統計処理システム『クリニスタットVer.2.2』運用開始	ダイヘテック
1996. 11	Power Book 5300(2台目)他運用開始	セイコー
1997. 2	Power Mac 7600/132他運用開始	セイコー
1997. 6	情報処理室設置	
1997. 6	Inter Net 接続（sentluke@fat.coara.or.jp）	

診療データ管理システム構成図



学会発表一覧

年月日	演題	学会名	場所
1973. 7.15	Krukenberg氏腫瘍をともなった転移性子宮癌の一例（院長）	昭和48年度日産婦大分地方部会	別府
1973.11.17	クルーケンベルグ腫瘍を伴った転移性子宮癌の一例（院長）	第73回九州医師会医学会	宮崎
1974.10.11	無排卵婦人に対する3回採血法によるLH-RH テストについて（院長）	第19回日本不妊学会総会	金沢
1974.12.15	当科不妊外来3年間における原因別考察（院長）	第74回九州医師会医学会	大分
1975. 5. 2	血中ホルモン値からみた黄体機能（院長）	第48回日本内分泌学会総会	京都
1975. 5.18	PCOにおけるLH-RH test（院長）	昭和50年度日産婦大分地方部会	中津
1975.10. 2	HMG排卵誘発と血中ホルモン動態（院長）	第20回日本不妊学会総会	仙台
1976.11.14	^{125}I・progesterone RIA Kitの検討（院長）	第76回九州医師会医学会	熊本
1976.11.28	重症無排卵症に対するKaufmann療法時における間脳・下垂体卵巣系の変化（院長）	第21回日本不妊学会総会	神戸
1977. 6.12	重症無排卵症に対するKaufmann療法時の間脳・下垂体機能に関する研究（院長）	第26回日産婦九州連合地方部会	熊本
1977. 6.19	重症無排卵症に対するKaufmann療法の意義（院長）	昭和52年度日産婦大分地方部会	大分
1977.10. 4	125 I-Estradiolを用いた血中Estradiol RIAの基礎的検討と臨床応用（院長）	第22回日本不妊学会総会	鹿児島
1977.10.23	血中Gonadotropin値からみた無排卵症について（院長）	第77回九州医師会医学会	福岡
1978.11.18	腹腔鏡による卵巣形態と内分泌動態（院長）	第23回日本不妊学会総会	東京
1979. 6.10	当科不妊外来における原因別考察（院長）	昭和54年度日産婦大分地方部会	別府
1979. 9.21	^{3}H-Estradiolを用いたTe-BG binding capacityの測定法について（院長）	第24回日本不妊学会総会	札幌
1979.11.18	シンポジウム「子宮内膜症」～腹腔鏡による子宮内膜症の診断～（院長）	第79回九州医師会医学会	佐賀
1980. 6.22	多のう胞性卵巣の楔状切除前後におけるホルモン動態（院長）	第29回日産婦九州連合地方部会	長崎
1980.10. 1	Gonadotropin Resistant Ovary Syndromeに対するKaufmann療法およびHMG大量療法について（院長）	第25回日本不妊学会総会	宇部
1980.11.30	^{3}H-Estradiolを用いたTestosterone-estradiol binding globulin結合能について（院長）	第80回九州医師会医学会	宮崎
1981. 6.21	高Gonadotropin 性無排卵症に対する排卵誘発法について（院長）	第30回日産婦九州連合地方部会	佐賀
1981. 7.26	腹腔鏡検査280例の検討（院長）	昭和56年度日産婦大分地方部会	日田

年月日	演題	学会名	場所
1983. 7. 3	われわれの腹腔鏡施行例の検討（院長）	昭和58年度日産婦 大分地方部会	大分
1983. 7.30	不妊症患者における腹腔鏡的診断（院長）	第21回産婦人科 内視鏡学会	福岡
1983.11.16	低圧環境下における運動負荷時 の各種ホルモンの動態（院長）	第28回日本不妊学会 総会	名古屋
1983.11.22	不妊外来統計（院長）	第32回日産婦九州連合 地方部会	長崎
1984. 5. 7	腹腔鏡による子宮内膜症の診断と Danazolによる治療（院長）	昭和59年度日産婦日母 別府地区総会	別府
1984. 7. 8	不妊症における外性子宮内膜症 の腹腔鏡による診断（院長）	昭和59年度日産婦 大分地方部会	日出
1984.11.13	不妊症における子宮内膜症 について（院長）	第29回日本不妊学会 総会	東京
1985. 3. 2	不妊症における子宮内膜症の腹腔鏡検査 とダナゾールによる治療効果判定について（院長）	第2回九州エンド メトリオージス研究会	福岡
1985. 5.26	子宮内膜症のダナゾール療法の腹腔鏡 による効果判定について（院長）	第34回日産婦九州連合 地方部会	鹿児島
1985.10.27	低圧ストレスの下垂体前葉ホルモン に及ぼす影響（院長）	第85回九州医師会医 学会	福岡
1985.11.25	低圧環境の間脳・下垂体に与える影響（院長）	第30回日本不妊学会 総会	東京
1986. 6.29	子宮内膜症に対するGestrinoneの効果（院長）	昭和61年度日産婦 大分地方部会	大分
1986.10.16	低圧環境ストレスの下垂体・造精機能 に与える影響（院長）	第31回日本不妊学会 総会	仙台
1986.11.13	低圧ストレスの下垂体及び性腺 に機能に及ぼす影響（院長）	日本高気圧環境学会 総会	福岡
1987. 4. 1	子宮内膜症に対するDanazol とR・2323の比較（院長）	第39回日本産婦人科学会 総会	東京
1987. 7. 5	不妊症における腹腔鏡の意義（院長）	昭和62年度日産婦 大分地方部会	竹田
1987.11.13	Effects of Simulated Altitude of 5400m and Himaraya Mountaineering on Pituitary-Testicular Function（院長）	International Symposium on High-Altitude Medical Science	松本
1987.11.23	高ゴナドトロピン性無排卵症 の排卵・妊娠について （九州地区7大学の統計）（院長）	第32回日本不妊学会 総会	金沢
1987.11.28	多のう胞性卵巣に対する腹腔鏡下 Multiple Punch Resection （院長）	第87回九州医師会 医学会	佐賀
1988. 4. 4	多のう胞性卵巣に対する卵巣楔状切除術 と腹腔鏡下Multiple Punch Resection の効果について（院長）	第40回日本産婦人科学会 総会	大阪
1989. 8.26	多のう胞性卵巣に対する卵巣楔状切除術 と腹腔鏡下Multiple Punch Resection の効果について（院長）	1st Tokyo conf. on Reprod. Phisiology	東京

年 月 日	演　　題	学　会　名	場 所
1989. 9. 2	多のう胞性卵巣に対する卵巣楔状切除術と腹腔鏡下Multiple Punch Resectionの効果について（院長）	第34回日本不妊学会総会	旭　川
1990. 5.17	PCOと糖尿病合併の若年者例について（case report）（院長）	第63回内分泌学会学術総会	大　阪
1990. 6.10	PCOと糖尿病について（院長）	第39回日産婦九州連合地方部会	佐　賀
1990. 6.24	PCOと糖尿病について（院長）	平成2年度日産婦日母大分地方部会	大　分
1990.11.17	PCOと糖尿病（院長）	第35回日本不妊学会総会	千　葉
1990.11.25	早発閉経に対するK療法とLH-RHa療法の効果（院長）	第90回九州医師会医学会	大　分
1991. 2.11	The correlation between PCO and DM（院長）	アジアオセアニア産婦人科学会	*Bangkok*
1991. 5.26	児が46XY11q(-)であった双胎について（院長）	第40回日産婦九州連合地方部会	宮　崎
1991. 6.23	当科の不妊外来統計（院長）	平成3年度日産婦大分地方部会	別　府
1993. 4.25	男性不妊症患者における精液所見と泌尿器科的所見の関連について（安東桂三）	第4回日本不妊学会春季九州支部会	大　分
1993. 4.25	不妊症における腹腔鏡検査～卵管采について～（院長）	第4回日本不妊学会春季九州支部会	大　分
1993. 4.25	不妊症患者に対する意識調査に関する検討（曽根崎トシ子）	第4回日本不妊学会春季九州支部会	大　分
1993.11.29	診療所におけるデータ管理システム（安東桂三）	第24回大分市医師会医学総会	大　分
1993.11.29	不妊症患者に対する意識調査に関する検討（指山実千代）	第24回大分市医師会医学総会	大　分
1993.11.29	当院における妊娠例の検討（院長）	第24回大分市医師会医学総会	大　分
1993.12.18	男性不妊症患者における男性性器の形態学的異常の検討(第1報)（緒方俊一）	日本泌尿器科学会第25回大分地方部会	大　分
1994. 4.24	不妊外来における注射の副作用について（指山実千代）	第5回日本不妊学会春季九州支部会	福　岡
1994. 4.24	顕微授精における精子性状と胚について（安東桂三）	第5回日本不妊学会春季九州支部会	福　岡
1994. 4.24	腹腔鏡検査による卵管形態と妊娠について（院長）	第5回日本不妊学会春季九州支部会	福　岡
1994. 4.24	不妊症における精索静脈瘤の診断と治療（第1報）（緒方俊一）	第5回日本不妊学会春季九州支部会	福　岡
1994. 7.14	顕微授精における精子性状と胚についての検討（安東桂三）	第12回日本受精着床学会	鹿児島
1994.10. 8	内視鏡手術麻酔時の血液循環動態（院長）	大分内視鏡手術学会	大　分

年 月 日	演　　題	学　会　名	場 所
1994. 10. 20	生殖医療に対する不妊症患者の意識調査（院長）	10月大分市医師会 学術研修会	大　分
1994. 10. 26	各種顕微授精における精子性状 と胚についての検討（安東桂三）	第39回日本不妊学会 総会	富　山
1994. 10. 26	生殖医療に対する不妊症患者の意識調査（院長）	第39回日本不妊学会 総会	富　山
1994. 11. 17	診療データ統計解析システムの開発 とその一例 ～精液性状の解析を中心として～（安東桂三）	第25回大分市医師会医学 総会	大　分
1994. 11. 17	不妊症患者へのアンケート調査 ～減胎手術・代理母～（麻生佳枝）	第25回大分市医師会 医学総会	大　分
1995.　3. 11	不妊外来における注射 の副作用について（指山実千代）	第17回大分県看護研究 学会	大　分
1995.　3. 26	不妊症患者へのアンケート調査 ～減胎手術代理母について～（正成みどり）	第6回日本不妊学会 春季九州支部会	福　岡
1995.　3. 26	不妊症診療における診療データ の保存・解析について ～当院での試み～（安東桂三）	第6回日本不妊学会 春季九州支部会	福　岡
1995.　3. 26	当院の不妊外来成績（院長）	第6回日本不妊学会 春季九州支部会	福　岡
1995.　5. 20	多嚢胞性卵巣症候群の耐糖能異常 と治療法について（院長）	第45回日産婦九州連合 地方部会	熊　本
1995.　7.　6	当院の顕微授精における妊娠例 と非妊娠例との差について（安東桂三）	第13回日本受精着床学会	東　京
1995.　7.　6	当院におけるARTによる妊娠成績（院長）	第13回日本受精着床学会	東　京
1995. 10. 25	IVF-ET妊娠率と子宮内膜の厚さと移植胚数について（院長）	第40回日本不妊学会学術講 演会	山　形
1995. 10. 25	不妊症治療における診療データの保存・解析について（安東桂三）	第40回日本不妊学会学術講 演会	山　形
1995. 11. 16	当院におけるART (Assisted Reproductive Technology) 成績について（安東桂三）	第26回大分市医師会 医学総会	大　分
1995. 11. 16	腹腔鏡検査前後の患者の心理状態 や精神的ストレス（柴田令子）	第26回大分市医師会 医学総会	大　分
1995. 11. 26	腹腔鏡検査時の術中循環動態について（院長）	第40回日本不妊学会 九州支部会	佐　賀
1995. 11. 26	腹腔鏡検査前後の患者の心理状態 や精神的ストレス（柴田令子）	第40回日本不妊学会 九州支部会	佐　賀
1995. 11. 26	当院におけるICSIの成績（安東桂三）	第40回日本不妊学会 九州支部会	佐　賀
1995. 11. 26	精巣上体洗浄による精子採取法（緒方俊一）	第40回日本不妊学会 九州支部会	佐　賀
1996.　3.　9	腹腔鏡検査前後の患者の心理状態や 精神的ストレス（柴田令子）	第18回大分県看護研究 学会	大　分
1996.　4. 21	ICSIに於ける低受精率症例について（安東桂三）	第7回日本不妊学会 春季九州支部会	福　岡

年 月 日	演　　題	学　会　名	場 所
1996. 4.21	減数手術や代理母を不妊症夫婦はどう考えているか（市野瀬恵）	第7回日本不妊学会 春季九州支部会	福　岡
1996. 7.10	不妊症診療における妊娠例と妊娠困難例について（院長）	第14回日本受精着床学会	福　島
1996. 7.10	当院の1 day old ICSI症例について（安東桂三）	第14回日本受精着床学会	福　島
1996. 8. 1	腹腔鏡検査時の術中循環動態について（院長）	第36回日本産婦人科 内視鏡学会	米　子
1996.10.26	Severe male factor に対するICSI成績について（安東桂三）	第41回日本不妊学会 九州支部会	宮　崎
1996.10.26	採卵時麻酔チェックリストの使用による検討 ～体外受精・胚移植～（渡辺利香）	第41回日本不妊学会 九州支部会	宮　崎
1996.11. 3	多胎：不妊症治療の立場から（院長）	第46回日産婦 大分地方部会	大　分
1996.11.21	当院における無精子症・無精液症に対する顕微授精成績について（長木美幸）	第27回大分市医師会 医学総会	大　分
1996.11.21	採卵時麻酔チェックリストの使用による検討 ～体外受精・胚移植～（渡辺利香）	第27回大分市医師会 医学総会	大　分
1997. 4.20	不妊治療における、経済的な側面をとらえての検討（柴田令子）	第8回日本不妊学会 春季九州支部会	福　岡
1997. 4.20	卵管采と妊娠について（院長）	第8回日本不妊学会 春季九州支部会	福　岡
1997. 7. 6	当院の5年間の不妊診療成績（院長）	第47回日産婦 大分地方部会	別　府
1997. 7. 6	精液性状とSQAIIBにおける各種パラメーターの関係について（安東桂三）	第47回日産婦 大分地方部会	別　府
1997. 7. 6	不妊治療における、経済的な側面をとらえての検討（柴田令子）	第47回日産婦 大分地方部会	別　府

論文一覧

論　　文　　名	掲　　載　　誌	
Krukenberg腫瘍をともなった転移性子宮癌の一例（院長）	産科と婦人科	42:100, 1975
腹腔鏡で確認したPolycystic OvaryにおけるLH-RH testの成績（院長）	温研紀要	27:188, 1975
正常性周期婦人及び排卵障害婦人におけるLH-RH test（院長）	ホルモンと臨床	24:319, 1976
125 I-progesterone RIA Kitの基礎的検討とその臨床応用について（院長）	ホルモンと臨床	25:569, 1977
125 I-Estradiolを用いたEstradiol RIAの基礎的検討と臨床応用（院長）	ホルモンと臨床	25:1131, 1977
卵巣性第11度無月経症に対するKaufmann療法の意義（院長）	日本産科婦人科学会誌	30:1673, 1978
Testosterone-Estradiol Binding Globulinのbinding capacity測定法について（院長）	日本内分泌学会誌	56:1475, 1980
Gonadotropin Resistant Ovary Syndromeに対するKaufmann療法、hMG大量療法について（院長）	日本産科婦人科学会誌	33:250, 1981
排卵障害婦人に関する臨床内分泌学的研究（院長）	温研紀要	33:1, 1981
125 I-Testosterone RIA Kit"栄研"の基礎的検討（院長）	ホルモンと臨床	29:1413, 1981
難治性無排卵症の治療（依頼稿）（院長）	産婦人科の実際	32:1169, 1983
hMG日研による排卵誘発成績（院長）	産科と婦人科	51:823, 1984
低圧環境下における運動負荷時の血中下垂体前葉ホルモン値の動態（院長）	日本内分泌学会誌	60:1214, 1984
子宮内膜症の診断と治療（依頼稿）（院長）	産婦人科治療	51:333, 1985
高山病の発症要因と予防　（依頼稿）（院長）	日本医事新報	3248:162, 1986
不妊症における子宮内膜症に対するDanazol療法と腹腔鏡による治療効果判定（院長）	日本産科婦人科学会誌	38:1733, 1986
不妊症における子宮内膜症に対するGestrinoneとDanazol療法の治療効果について（院長）	日本産科婦人科学会誌	40(4):459, 1988
Effects of Simulated Altitude of 5400m and Himaraya Mountaineering on Pituitary-Testicular Function.（院長）	High Altitude Medical Science (Shinsyu univ.)	1988
多のう胞性卵巣症候群に対する腹腔鏡下卵巣パンチ切除術の臨床的、内分泌的効果について（院長）	日本産科婦人科学会誌	40(12):1800, 1988
不妊症と性器奇形（依頼稿）（院長）	産科と婦人科	57:437, 1990
Hormonal and Clinical Effects of Multifollicular Puncture and Resection on the Ovaries of Polycystic Ovary Syndrome（院長）	Hormone Research	33(suppl2):35, 1990
多のう胞性卵巣症候群と糖尿病（院長）	大分県立病院医学雑誌	19:70, 1990

論　　文　　名	掲　　載　　誌	
当科における不妊外来統計 -19896～19907-（院長）	大分県立病院医学雑誌	20:76, 1991
習慣流産の治療について（院長）	大分県立病院医学雑誌	20:80, 1991
Insulin Resistance in Nonobese Patients with Polycystic Ovary Syndrome（院長）	日本不妊学会雑誌	38(2):77(291)1993
「減胎手術」や「代理母」を不妊夫婦 はどう考えているか（院長）	セミナー医療と社会	7:76, 1995
不妊症外来における注射の副作用について （院長）	臨床婦人科産科	49(9):1325, 1995
多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)の現状と問題点 ～PCOの耐糖能異常と治療法について～（院長）	日本産科婦人科学会 九州連合地方部会雑誌	1995
診療データ統計解析システム開発 とその解析の一例（安東桂三）	大分市医師会医学雑誌 アルメイダ医報	20(2):151, 1995
RESAとICSIによる不妊治療について（院長）	日本不妊学会誌	1996
不妊症治療から見た医療の社会性について （院長）	セミナー医療と社会	11:13, 1997
多胎妊娠と不妊治療について（院長）	大分県医師会雑誌	1997
無精子症に対する顕微授精成績（長木美幸）	大分市医師会医学雑誌 アルメイダ医報	1997
採卵時麻酔チェックリストによる検討 （渡辺利香）	大分市医師会医学雑誌 アルメイダ医報	1997

著書（共著）一覧

著　書　名	掲　載　誌	
体外受精-私のコツ（院長）	臨床婦人科産科	49(8):1175, 1995
ICSI受精卵の着床・流産（院長）	ICSIの手技と臨床	1997

主催講演会一覧

年月日	講　演　名	場　所
1994. 6.26	第1回セント・ルカセミナー 講師：Dr. Brinsden（Bourn Hall Clinic）	セント・ルカホール
1995. 6.11	第2回セント・ルカセミナー 講師：加藤 修先生（加藤レディースクリニック） 講師：高橋克彦先生（広島HARTクリニック）	セント・ルカホール
1995. 8.27	第1回赤ちゃんがほしい講座	コンパルホール
1996. 8.24	第3回セント・ルカセミナー 講師：斎藤英和先生　（山形大学産婦人科助教授） 講師：Dr. K. Y. CHA（CHA General Hospital）	セント・ルカホール
1996. 9.23	第2回赤ちゃんがほしい講座	コンパルホール

講演一覧

年 月 日	講　演　題	学　会　名	
1987. 5. 4	低圧ストレスと性機能（院長）	宇宙基地医学研究会	名古屋
1990. 10. 27	不妊症と内分泌について（院長）	大分県衛生検査技師研究会	大　分
1995. 7. 20	生殖医療最前線（院長）	大分市医師会講演会	大　分
1996. 10. 19	不妊治療とART（院長）	岐阜地区不妊治療症例検討会	岐　阜
1997. 3. 1	不妊診療と少子少産時代（院長）	セミナー医療と社会	弘　前
1997. 3. 6	女性の健康について（院長）	県庁	大　分
1997. 6. 15	精液所見を中心とした生殖医療について（院長）	検査技師会一般研究班研究会	大　分

翻訳一覧

書　名	出　版　元	翻訳者
Artificial Insemination with Husband's Sperm	The American Fertility Society	院長 長木美幸
IVF and GIFT:a Guide to Assisted Reproductive Technologies	American Society for Reproductive Medicine	院長 長木美幸 佐藤真紀
Infertility:an Overview	American Society for Reproductive Medicine	院長 内藤多恵

見学・院内講習会参加一覧

年 月 日	見学施設・講習会名	場 所	参 加 者
1993. 5.27	文化講演会 「生き方の選択」 …講師 日野原重明先生	別 府	全員参加
1993.12.10	講習会 「今、なぜサービスなのか」	院 内	井田美千子・森広美 小野紀子
1994. 1.18	接遇研修会開催 「サービスについて」 …講師 トキハデパート藤川部長	院 内	全員参加
1994. 1.29	セローノ研究所見学	静 岡	院長・安東桂三
1994. 4.28	加藤レディースクリニック見学	東 京	安東桂三
1994. 5. 1	Bourn Hall Clinic見学	*London*	院長
1994. 7.17	患者さんへの接遇教育研修会	大 分	長木美幸・磯崎美智子 三重野直美・倉橋千鶴美 足達明子・小野紀子 森広美・井田美千子 宮沢しのぶ
1994.11. 8	マッキントッシュ講習会	院 内	全員参加
1994.11.19	メディカル体験セミナー	大 分	長木美幸・小野紀子 麻生佳枝・上杉松枝
1994.11.20	竹内レディースクリニック見学	鹿児島	院長・安東桂三 広津留恵子・広瀬美代子
1994.11.24	接遇セミナー …講師 青木節子先生	院 内	全員参加
1995. 2.18	鹿児島大学農学部 後藤研究室訪問	鹿児島	院長・安東桂三 広津留恵子・長木美幸
1995. 3.16	講習会「麻酔について」 …講師 大分医科大学 本多夏生教授	院 内	全員参加
1995. 4.26	講習会 「LH-RHアゴニスト2剤の比較 (スプレキュア・ナサニールの使用方法)」 …講師 ダイコー医療情報室 有馬美紀先生	院 内	全員参加
1996. 1.19	CHA General Hospital 見学	*Seoul*	院長・安東桂三 広津留恵子・長木美幸
1996. 6.23	加藤レディースクリニック見学	東 京	安東桂三
1996. 8. 2	ミオファティリティクリニックみお産婦人科見学	米 子	院長・指山実千代・磯崎美智子
1997. 2.12	講演会「女性の一生と健康について」 …講師 Prof. R. Upton (ミネソタ大名誉教授)	院 内	全員参加

学会・講演参加一覧

年月日	学会・講演名	場所	参加者
1993. 4.10	第45回日本産科婦人科学会学術講演会	大阪	院長・安東桂三
1993. 4.24	第10回九州エンドメトリオージス研究会	福岡	院長・安東桂三
1993. 6.18	看護協会研修会『リーダーシップと人間関係』	大分	倉橋千鶴美・麻生佳枝
1993. 7.17	第5年度·第1回『日本産科婦人科学会大分地方部会日本母性保護医協会大分県支部』研修会	大分	院長・安東桂三 岩城恵理子
1993. 9. 1	看護協会研修会『現在の大分県の医療体制』	大分	足達明子・河村直美
1993. 9.11	第38回日本不妊学会学術講演会	京都	院長・緒方俊一 広津留恵子・安東桂三
1993. 9.12	VIIIth World Congress on In Vitro Fertilization and Assisted Reproduction	京都	安東桂三
1993.10. 2	生殖医療研究協会10月例会	群馬	安東桂三・岩城恵理子
1993.10.17	第93回九州医師会医学会	福岡	院長・磯崎美智子 岩城恵理子・安東桂三
1993.10.30	第11回おぎゃー献金推進月間記念講演会	大分	全員参加
1993.11.13	生殖医療研究協会11月例会	群馬	院長・安東桂三
1994. 1.11	看護業務研修会	大分	指山実千代
1994. 1.28	エンドメトリオージス研究会	大阪	院長
1994. 1.29	第3回実戦統計学セミナー	東京	安東桂三・森広美
1994. 4. 9	第46回日本産科婦人科学会学術講演会	東京	院長・安東桂三 広津留恵子・宮沢しのぶ
1994. 4.23	GnRH研究会	福岡	院長・安東桂三
1994. 4.27	第35回哺乳動物卵子学会	東京	安東桂三
1994. 5.21	高度医療技術研究所第12回例会	栃木	院長・安東桂三 広津留恵子
1994. 5.31	International Symposium on Genetics of Gametes and Embryos	*New York*	院長・安東桂三
1994.10. 6	鈴木秋悦先生講演会	大分	院長・安東桂三・玉井君枝 長木美幸・指山実千代 倉橋千鶴美・足達明子 広津留恵子
1994.11. 7	第47回内分泌同好会	大分	院長・安東桂三・指山実千代 渡辺多鶴子・足達明子
1994.11.20	第39回日本不妊学会九州支部会	鹿児島	院長・安東桂三 広津留恵子・広瀬美代子
1994.11.26	看護協会研修会	大分	指山実千代
1994.12. 1	九州地区看護研究学会	長崎	足達明子・柴田令子
1994.12. 3	4rd International Workshop on Assisted Fertilization by ICSI of Epididymal and Testicular Sperm	*Brussels*	院長・安東桂三
1995. 1.17	大分市医師会産婦人科懇話会	大分	院長・磯崎美智子 渡辺多鶴子・足達明子
1995. 3. 4	セミナー『医療と社会』第13回例会	弘前	麻生佳枝・富田ゆかり
1995. 4. 1	IXth World Congress on In Vitro Fertilization and Assisted Reproduction	*Vienna*	院長・安東桂三

年月日	学会・講演名	場所	参加者
1995. 4.14	第1回大分市医師会産婦人科内分泌不妊代謝懇話会	大分	院長・他多数
1995. 4.29	CHA-Monash Second Joint Symposium	*Seoul*	院長・安東桂三
1995. 5.29	大分市医師会産婦人科学術講演会	大分	院長・他多数
1995. 6.10	セミナー『医療と社会』第14回例会	弘前	柴田令子・広瀬美代子
1995. 9. 2	セミナー『医療と社会』第15回例会	弘前	院長・渡辺多鶴子 市野瀬恵
1995.10. 6	American Society for Reproductive Medicine	*Seattle*	院長・安東桂三
1995.10.14	第2回大分市医師会産婦人科内分泌不妊代謝懇話会	大分	院長・他多数
1995.12. 6	平成7年度九州地区看護研究学会	佐賀	広瀬美代子・富田ゆかり
1996. 3.24	The Pacific Rim Society for Fertility and Sterility	*Hawaii*	院長・安東桂三・佐藤真紀
1996. 4. 6	第48回日本産科婦人科学会学術講演会	横浜	院長
1996. 4.12	第3回大分市医師会不妊内分泌代謝懇話会	大分	院長・他多数
1996. 4.28	日本コンピューターサイエンス学会 第1回学術セミナー	東京	後藤孝子
1996. 5.26	日本コンピューターサイエンス学会 第2回学術セミナー	東京	後藤孝子
1996. 6. 2	第36回産婦人科情報処理研究会	福岡	後藤孝子
1996. 6.20	第37回哺乳動物卵子学会	東京	安東桂三
1996. 6.22	ICSI Seminar and Demonstration	東京	院長・安東桂三 広津留恵子・長木美幸
1996. 7.18	IXth In Vitro Fertilization and Embryo Transfer :A Comprehensive Update-96	*Santa-Barbara*	院長・安東桂三・長木美幸
1996. 9.13	3rd International Workshop on Assisted Fertilization	*Seoul*	院長・安東桂三・佐藤真紀
1996.10. 5	第26回アルメイダ病院QC大会	大分	指山実千代
1996.10.12	第2回日本MIM研究会	別府	後藤孝子
1996.11. 6	第41回日本不妊学会学術講演会	徳島	院長・安東桂三・内藤多恵 高野陽子・牛島千秋
1996.12.12	平成8年度九州地区看護研究学会	鹿児島	広瀬美代子・柴田令子
1997. 3. 1	セミナー『医療と社会』第21回例会	弘前	院長・磯崎美智子 寺崎実希子
1997. 3. 8	第19回大分県看護研究学会	大分	渡辺利香・倉橋千鶴美
1997. 3.16	第40回産婦人科情報処理研究会	東京	後藤孝子
1997. 3.23	第27回アルメイダ病院QC大会	大分	指山実千代
1997. 4. 6	第49回日本産科婦人科学会学術講演会	東京	院長
1997. 4.11	看護協会研修会	大分	指山実千代・市野瀬恵
1997. 5.24	Xth World Congress on In Vitro Fertilization and Assisted Reproduction	*Vancouver*	院長・指山実千代 佐藤真紀

不妊診療に携わって

私が産婦人科を志した理由は、まだ医学生のころ、分娩実習に立ち合った時の感激からです。それは、たった今まで「一人」だったお腹の大きいお母さんから、もう一人の私たちと同じ一人の人間が生まれ、「二人」になったという事実に不思議な感動を覚えたものでした。

医者になってこの生命の誕生というとても神秘的な感激を味わえることは他科の医者にはないと思います。産婦人科のいい所と言えばこの誕生という「お祝事」に直接タッチできる点です。

生命の誕生は私たち人間が現代の科学を駆使してもほとんどが分かっていないほどとても神秘的なできごとです。そしてたった一人の人間が無事にめでたく誕生するまでの経過をたどってみると、神様がいかに巧妙な仕組みで私たちを作ってくれているか良く分かります。

まず、数億の精子からたった一匹が選ばれて、これまた数十万個の卵子のうちから選ばれた一個の卵子と出会い(受精)、状況が良ければ（すなわち、正常に分割が進行し、正常に発育すれば）子宮に到達して着床し、妊娠が成立します。

受精した卵が成長するのはそのうち70%ほどです。そして子宮に到達して着床するのはそのうちの20%くらいです。

このようにしてせっかく妊娠してもそのうち15%は流産してしまいます。この原因はほとんどが赤ちゃん側にあると言われています。

このようにしてみると赤ちゃんが生まれるまでには多くの難関をくぐっていることが分かります。だから私たちは、たとえ背が高かろうが低かろうが、頭が良かろうが悪かろうが、欠点があろうが無かろうが、みんな、この難関をくぐってきたエリートなのです。

そのような私たちだけを神様はこの世に送り出し、生かしてくれているのです。ですから私たちはみんな平等で、エリートなのです。

さて、一般的にはすべてがこのように巧妙な仕組で妊娠、誕生が計画され、実行されるはずと思われがちですが、正常に妊娠、分娩に至ることは本当に綱渡りをしているように思えます。ちょっと何かが狂えば大変なことになる可能性があります。妊娠中には妊娠中毒症や早産、突然の体内死亡、早期破水、出血、糖尿病など合併症の悪化、また、分娩時では微弱陣痛、廻旋異常、胎児仮死、子宮破裂、などなど、赤ちゃんのみならず、母体の生命を脅かすほどのトラブルがたくさんあります。

私は大分県立病院にもいましたのでそのような場面をたくさん見てきました。最近は女性にとって、お産は人生の中で１～２回しかないビッグイベントで、だから楽しいお産をしようという考えもあります。しかし、このような異常妊娠、異常分娩と常に隣り合せにいることを自覚すべきと思います。

赤ちゃんを「授かる」ということは本当にこのように大変に神秘的でまた大変な難事業でもあるわけです。

この「赤ちゃんが欲しい」という思いはお母さんが自分の体を痛めても構わないと思うほどの強い「本能」に支えられております。特に長い期間にわたって入院治療を重ね、異常妊娠、異常分娩を耐え抜いてきたお母さんが、最後に赤ちゃんを無事にその腕で抱くシーンを何度も見てきた産婦人科医としては、「女性は強い！」と思うと共に、「赤ちゃんは強い！神様は素晴らしい！」と言わざるをえません。

最近は文明の発展と共に社会が多様化し、女性のいる場所が多くなって、その反面、子供が育てにくくなってきています。その結果、出生数が減ってきていることは最近、高齢人口の増加問題と共に常に話題になっています。

この結婚年令が上がってきていることは赤ちゃんを望む上で大きな障害にな

ります。女性の年令が上がれば子宮筋腫や子宮内膜症などの中高年女性特有の病気が多くなり、またクラミジアなどの感染機会が増えます。これらは赤ちゃんのできない原因の大きな部分を占めます。

また、一般的には更年期が50才前後で、それまでは月経があるので妊娠する機会があるように思われますが、体外受精の結果などから推察すると、実際は女性は35才以上になるととても妊娠しにくくなります。また妊娠しても流産しやすくなります。このように最近では不妊症（いやな言葉で使いたくないのですが）が増えてきています。

実際、統計的にも私が20年前、九州大学温泉治療学研究所（九大温研）時代に発表した時は、女性の初診時年令は28才でしたが、当院のこの５年間の統計ではそれは31才に上昇しています。

そして男性側も、私の経験から、以前に比べて元気がなくなってきているように思えます。私は24年前から不妊症診療を担当していますが、精子の検査をすると、全般的に最近では数が少なく、運動能力も落ちてきているように思えます。以前はこんなに悪くはなかったと思います。以前は不妊の原因の３分の１が男性側にあると言われていました。

私がやはり20年前、九大温研時代に発表したときは、男性では35％が精子の検査で異常を示していました。私の病院にはこの５年間に約1700人の男性患者さんが来院されまし たが、その検査成績では約62％の人が異常でした。

これも文明の発達と関係があるようで、この傾向は欧米ですでに指摘されており、ダイオキシンや有機塩素系殺虫剤などの体内ホルモン環境破壊物質によることが明らかになっています。

さて、赤ちゃんが欲しいのにできないカップルはどれくらいいるのでしょうか。以前から言われていることは10組に１組の夫婦が不妊であると言われてきましたが、さきほどの最近の傾向や、イギリスでの調査によると６組に１組がいわゆる不妊症であるとのことです。

赤ちゃんが欲しいという欲求は子孫を残したいという「本能」によります。この欲求はあまり理解されていませんが、非常に強いものです。非常に強いからこそ生物は子孫が増えていくので、これは正常の欲求です。その欲求、希望をかなえてあげたいというのが不妊症診療です。私たちのできることといえば先に述べたようにほんの一部のお手伝いにしかすぎませんが、そのほとんどが神様のお力でかなえられるのです。そして、私はそれにタッチしていくことが自分に与えられた使命と思っています。

「不妊症」とは本人が「赤ちゃんが欲しい」と思わなければ、結婚して何年たっても赤ちゃんがいなくても病気ではありません。しかし、欲しいと思えば「不妊症」になり、治療する必要がでてきます。10年前、私は事故で首の骨を折ってしまいました。普通なら即死、運がよくて下半身不随といわれた事故でしたが、奇跡的にまったく後遺症がなく回復しました。そのとき私は何故私が生きているのかと思いました。そしてこれは神様が「おまえにはまだまだやり残した宿題があるのだから」と言われて、神様から生かされているのだと思いました。そして、また、その「宿題」とはこの不妊症診療だと気付きました。それから一年間聖書を学び、洗礼を受け、この「宿題」をライフ･ワークにすることに決めました。

不妊症の診療については、最先端医療のひとつとして臓器移植と並んでセンセーショナルにマスコミに載る機会が多いのはご存じのとおりです。その原因は「生命」についての考え、社会的コンセンサスが科学の進歩と遊離しているとも、また、世界的に見れば民族性の違いによるとも考えられています。

ときどき「赤ちゃんは神様からの授かりものだから自然に任せればよい」など

という乱暴な意見が見られることがあります。しかし、そう言っている人は、それなら自分が病気になったら自然に治るのを待つでしょうか。やはり科学の力を借りて早く良くなるように治療を受けるでしょう。だから赤ちゃんが欲しいなら科学の力で早くかわいい赤ちゃんを得るよう努力することに反対できるはずはありません。

赤ちゃんが欲しいと思っている人の気持ちはそうでない人(すでに子供のいる人)にはまず理解できないほど強いのです。私は今までに10000組ほどの不妊のカップルを見てきましたが、周囲の人(家族も含めて)がその気持ちを理解してくれないことに何度も歯ぎしりをしたものです。

私は子供のいない夫婦に対して社会が社会的な理由ではなく、その夫婦の気持ちを大切に思い遣ってあげられるような暖かい理解が今の日本には必要だと思います。

最近、少子少産時代といわれ、将来の人口構成を中心とした問題が盛んに議論されるようになってきました。しかし、その時に不妊症カップルのことが話題になっているのを見たことがありません。先に述べたように不妊症夫婦は数十年前の統計で10%の大変な疾患といえます。また、出生率が下がってきたからといって、エンゼルプランなどで赤ちゃんを産んだ人には十分な補助がもらえるのに対し、不妊症治療には何にも補助はありません。また唯一の補助といえる保険適応についても、50年以上の歴史のある夫の精子を用いた人口受精ですら、いまだ保険適応ではありません。

体外授精に要する費用は当院の試算では消耗品だけで約13万円かかることが分かりました。ところがこれも一切保険適応にはなっておりません。その理由は成功率が20%位で低くまた、特殊技術であるとのことです。しかし、自然妊娠でも、一回の排卵で妊娠する確立は18～35%と言われています。すなわち、ART(Assisted Reproductive Technology：生殖補助技術：体外受精、GIFT、顕微授精など)の妊娠率はすでにそれに匹敵しています。また、特殊技術と言っても、心臓カテーテルや人工透析も同じ特殊技術ですが保険適応になっています。

さらに、不妊症診療の経済的側面を患者さん側から検討するために、当院でアンケート調査を行ってみました。その結果、月収は20～30万円がもっとも多く、また、治療に支払っているのは月に１～３万円がもっとも多いことが分かりました。そして体外受精を行っている場合は20～30万円に上がっていました。若い夫婦の家計に不妊症診療がいかに負担になっているかが推察されました。また、ARTを行うに当って、その支払いはボーナスからがもっとも多かったのですが、中には親から借りるとか、そのためにパートに出るとかがあり、その中でも金融機関から借金をしてという深刻なものもありました。

このように社会的にも経済的にもすでに不妊症診療は大きな社会問題としてとらえ、解決すべき時にきていると思われます。

私はこの仕事の性格上、年に７～８回は国内での、２～３回は海外での学会にうちの病院のスタッフと一緒に出かけます。そうしなければ最先端の医学に遅れをとるからで、それはすなわち、患者さんが得られるはずの利益（最新の治療）が減る可能性があるからです。

今ではたった一匹の精子とたった一個の卵子があれば赤ちゃんができるようになりました。いわゆる「顕微授精」です。顕微鏡を用いて卵子の中に精子を送り込んであげる方法です。私の病院でもARTで約360人が妊娠しました。そのうち顕微授精では約100人が妊娠しています。この人たちはそのテクニックでなければ赤ちゃんが望めなかった人たちです。

また無精子症と診断されていた人の半分が、実は精子がいるのに外に出てい

ないことが分かり、「おがた泌尿器科医院」の緒方俊一院長とタイ・アップして手術的に精子を得て（逆行性精巣上体精子採取法）顕微授精を行い、妊娠に成功しました。また脊椎損傷の夫からも同様に精子を得、妊娠できました。このように最先端の治療技術を用いれば3年前ではまったく赤ちゃんが望めなかった人でも今では可能性があると言えます。

しかし、最先端医療には考えなくてはならない点がたくさんあります。たとえば外国と日本では当然、治療についての考え方が異なります。最近、よく知られてきた「代理母」については、アメリカやイタリア、韓国、オーストラリアなどでは自由に行っています。それらの国では他人の精子や卵子をもらうのも自由です。しかし、日本では他人のものを用いて良いとされているのは精子だけです。

私はこのことについて、24年間の経験から、たとえ精子であっても他人のものを使うのは私たち日本人にはなじまないと思っています。それは特に欧米人とこの事について話してみると、日本人と彼らは根本的に考えが違うと感じるからです。彼らには彼らの歴史的、宗教的、社会的な基本があり、親子、遺伝、家系、先祖などについての考え方は日本人とは異なっています。だから欧米で行われている最先端医療をすぐ日本で応用するのは危険であるし、それをしないからといって遅れをとってしまうわけではありません。

私の病院のスタッフが赤ちゃんが欲しい人たちに「代理母」についてのアンケートをとってみました。すると、もしその方法でなければ赤ちゃんが得られないとしても代理母を希望しない人が95%でした。代理母については日本人が日本ではそれができないので、高いお金を払ってわざわざ外国に行って行う事が時々マスコミにセンセーショナルに載ります。しかし、アンケートの結果のように、日本人のほとんどはそこまでしても赤ちゃんを望んでいないのが事実です。

私は不妊症の治療とは、その人に欠乏しているものを科学の力でどうにかこうにか増やしてあげる作ってあげる事で、足りないものをよそから持ってきて代理させることではないと思っています。

もっとも重要な事は、そこでできる結果とは、私たちと同じ一人の人間であるという事実です。いくら赤ちゃんといっても私たちと同じ一人の人格です。夫婦があって子供がいるという事は、夫婦の考え方次第でどんな手を使ってでも子供を作って良いというわけではありません。そこでできた子供は一人の人格であり、それゆえ、その夫婦と同じ次元の人間であるという事です。

不妊症の治療を行い、また治療を受けるにあたってはこのように、夫婦とは何か、親とは何か、子供とは何か、家族とは何かなどについてきちんと考えておく必要があると思います。

最先端の医療とはいっても、たとえば臓器移植が医学の過渡的段階であることを示すように、不妊の治療においても、まだまだたくさんの分からないことがあります。体外受精が1978年にイギリスで行われ、その福音を受けて赤ちゃんができた人が日本だけでもこの春で2万人を超える勢いです。

それでもなお、治療が困難で最終的に赤ちゃんができない人もいます。そのときにもっとも基本的な、「夫婦とは何か」という問が投げかけられると思います。

ある夫婦は最後に「私たちは治療をここまでとします。今後は二人で子供がいなくても楽しく生きていこうと思います。」と言ってさっぱりとした表情で報告に来てくれました。私は無力感を感じるよりも、そう言った夫の気持ちの良い心に感動しました。きっとこの二人は最後まで幸せだろうと感じました。

赤ちゃんがいなくても夫婦は夫婦なのですから。

宇津宮　隆　史

行事一覧

年	月 日	行　　事
1992	5.17	開院準備会、職員紹介（月洞門）
	5.28	セント・ルカ産婦人科落成式典
	6. 3	セント・ルカ産婦人科開院　外来36名
	6.13	腹腔鏡手術開始
	6.27	開院披露パーティー（大分西鉄グランドホテル）
	7. 2	第10回日本受精着床学会参加（徳島）
	8.29	不妊症ワークショップ参加
	9. 3	焼肉パーティー（高尾台 院長宅）
	9.20	薬学セミナーにて　院長講演
	10. 8	体外受精成功祝賀会
	11. 6	第37回日本不妊学会学術講演会参加（東京）
	11.23	九州医師会医学会参加（熊本）
	12.17	セント・ルカ産婦人科忘年会
1993	1. 4	セント・ルカ産婦人科新年会
	4.10	第45回日本産科婦人科学会学術講演会参加（大阪）
	4.24	第10回九州エンドメトリオージス研究会参加（福岡）
	4.25	第4回日本不妊学会春季九州支部会参加、発表（大分）
	5.27	文化講演会「生き方の選択」参加　講師 日野原重明先生（別府）
	6. 3	一周年開院記念式
	6.18	看護協会研修会「リーダーシップと人間関係」参加（大分）
	7.15	新職員 歓迎会開催
	7.17	第5年度・第1回日本産科婦人科学会大分地方部会 日本母性保護医協会大分県支部研修会参加（大分）
	9. 1	看護協会研修会「現在の大分県の医療体制」参加（大分）
	9. 8	セント・ルカ産婦人科データ管理システム本稼働
	9.11	第38回日本不妊学会学術講演会参加（京都）
	9.12	VIIIth World Congress on In Vitro Fertilization and Assisted Reproduction参加（京都）
	9.21	第1回Meeting開催（以後毎火曜日午後開催）
	10. 2	生殖医療研究協会10月例会参加（群馬）
	10.17	第93回九州医師会医学会参加（福岡）
	10.30	第11回おぎゃー献金推進月間記念講演会参加（大分）
	11.13	生殖医療研究協会11月例会参加（群馬）
	11.29	第24回大分市医師会医学総会参加、発表（大分）
	12.10	院内講習会「今、なぜサービスなのか」
	12.18	日本泌尿器学会第25回大分地方部会参加、発表（大分）
	12.22	セント・ルカ産婦人科忘年会
1994	1. 4	セント・ルカ産婦人科新年会
	1.11	第16回Meeting開催
	1.11	看護業務研修会参加（大分）
	1.18	院内接遇研修会開催「サービスについて」講師 トキハデパート藤川部長
	1.29	エンドメトリオージス研究会参加（大阪）
	1.29	セローノ研究所見学（静岡）
	1.29	第3回実戦統計学セミナー参加（東京）
	2. 5	第1回セント・ルカ産婦人科職員旅行（筋湯温泉）
	4. 8	新職員 歓迎会開催（別府千石やき）
	4. 9	第46回日本産科婦人科学会学術講演会参加（東京）
	4.23	GnRH研究会参加（福岡）
	4.24	第5回日本不妊学会春季九州支部会参加、発表（福岡）
	4.27	第35回哺乳動物卵子学会参加（東京）
	4.28	加藤レディースクリニック見学（東京）
	5. 1	Bourn Hall Clinic 見学（*London*）
	5.21	高度医療技術研究所第12回例会参加（栃木）
	5.31	International Symposium on Genetics of Gametes and Embryos参加（*New York*）

年	月日	行　　事
1994	6.26	第1回セント・ルカセミナー開催　（セント・ルカホール）
		・・・講師 Dr. P. R. Brinsden：Bourn Hall Clinic
	7. 5	セント・ルカセミナー反省会（豊後灘）
	7.14	第12回日本受精着床学会参加、発表（鹿児島）
	7.17	患者さんへの接遇教育研修会参加（大分）
	9.24	新職員 歓迎会開催（平家）
	10. 6	鈴木秋悦先生講演会（大分医科大）
	10. 8	内視鏡学会　院長発表（大分）
	10.15	第2回セント・ルカ産婦人科職員旅行（姫島）
	10.20	10月大分市医師会学術研修会参加、発表（大分）
	10.26	第39回日本不妊学会学術講演会参加、発表（富山）
	11. 7	第47回内分泌同好会参加（大分）
	11. 8	院内マッキントッシュ講習会
	11.17	第25回大分市医師会医学総会参加、発表（大分）
	11.19	メディカル体験セミナー参加（大分）
	11.20	第39回日本不妊学会九州支部会参加（鹿児島）
	11.20	竹内レディースクリニック見学（鹿児島）
	11.24	院内接遇セミナー　講師 青木節子先生
	11.26	看護協会研修会参加（大分）
	12. 1	九州地区看護研究学会参加（長崎）
	12. 3	4rd International Workshop on Assisted Fertilization
		by ICSI of Epididymal and Testicular Sperm参加（*Brussels*）
	12.17	セント・ルカ産婦人科忘年会
	12.20	セント・ルカ産婦人科クリスマス会（チャペル・ノア 広田勝正 牧師）
1995	1. 5	セント・ルカ産婦人科新年会
	1.10	第64回Meeting開催
	1.17	大分市医師会産婦人科懇話会参加（大分）
	2.18	鹿児島大学農学部　後藤研究室訪問（鹿児島）
	3月	「セント・ルカナースの心得」作成
	3. 4	セミナー「医療と社会」第13回例会参加（弘前）
	3.11	第17回大分県看護研究学会参加、発表（大分）
	3.16	院内講習会「麻酔について」　講師 大分医科大学 本多夏生教授
	3.26	第6回日本不妊学会春季九州支部会参加、発表（福岡）
	4. 1	IXth World Congress on In Vitro Fertilization
		and Assisted Reproduction参加（*Vienna*）
	4.14	第1回大分市医師会産婦人科内分泌不妊代謝懇話会参加（大分）
	4.26	院内講習会「LH-RHアゴニスト2剤の比較」
		講師 ダイコー医療情報室 有馬美紀先生
	4.29	CHA-Monash Second Joint Symposium参加（*Seoul*）
	5.11	空気殺菌清浄消臭装置設置
	5.20	第45回日本産科婦人科学会九州連合地方部会参加、シンポジウム発表（熊本）
	5.29	大分市医師会産婦人科学術講演会参加（大分）
	6.10	セミナー「医療と社会」第14回例会参加（弘前）
	6.11	第2回セント・ルカセミナー開催（セント・ルカホール）
		・・・講師 加藤 修先生：加藤レディースクリニック
		講師 高橋克彦先生：広島HARTクリニック
	6.23	第3回セント・ルカ産婦人科職員旅行（グアム島）
	7. 6	第13回日本受精着床学会参加、発表（東京）
	7.20	大分市医師会講演会　院長講演（大分）
	8.27	第1回「赤ちゃんがほしい」講座開催（コンパルホール）
	9. 1	新統計システム「CliniStat Ver2.2」開発・運用開始
	9. 2	セミナー「医療と社会」第15回例会参加（弘前）
	10. 3	セント・ルカ産婦人科互助会規約　作成
	10. 6	American Society for Reproductive Medicine参加（*Seattle*）
	10. 6	研究室改造

年	月 日	行　　事
1995	10.14	第2回大分市医師会産婦人科内分泌不妊代謝懇話会参加（大分）
	10.25	第40回日本不妊学会学術講演会参加、発表（山形）
	10.27	「生殖医学の臨床実施報告」日産婦へ報告
	11.16	第26回大分市医師会医学総会参加、発表（大分）
	11.26	第40回日本不妊学会九州支部会参加、発表（佐賀）
	12. 6	平成7年度九州地区看護研究学会参加（佐賀）
	12.21	セント・ルカ産婦人科クリスマス会（板橋教会 中川俊介 牧師）
	12.22	セント・ルカ産婦人科忘年会
	12.26	第109回Meeting開催
1996	1. 4	仕事始め
	1. 9	第110回Meeting開催
	1.19	CHA General Hospital見学参加（*Seoul*）
	2. 6	第1回院内「聖書の学び」日本福音ルーテル別府教会 三浦芳夫 牧師
	3. 9	第18回大分県看護研究学会参加、発表（大分）
	3.24	The Pacific Rim Society for Fertility and Sterility参加（*Hawaii*）
	4. 6	第48回日本産科婦人科学会学術講演会参加（横浜）
	4.12	第3回大分市医師会産婦人科内分泌不妊代謝懇話会参加（大分）
	4.21	第7回日本不妊学会春季九州支部会参加、発表（福岡）
	4.28	日本コンピューターサイエンス学会第1回学術セミナー参加（東京）
	5.26	日本コンピューターサイエンス学会第2回学術セミナー参加（東京）
	6月より	セント・ルカ産婦人科　第1・第3土曜日　午後休診
	6. 2	第36回産婦人科情報処理研究会参加（福岡）
	6. 8	第4回セント・ルカ産婦人科職員旅行（湯布院）
	6.20	第37回日本哺乳動物卵子学会参加（東京）
	6.22	ICSI Seminar and Demonstration参加（東京）
	6.23	加藤レディースクリニック見学（東京）
	7.10	第14回日本受精着床学会参加、発表（福島）
	7.17	マウス胚を使用した培養液のQuality-Control　開始
	7.18	IXth In Vitro Fertilization and Embryo Transfer:A Comprehensive Update-96参加（*Santa-Barbara*）
	8. 1	第36回日本産科婦人科内視鏡学会参加、発表(米子)
	8. 2	ミオファティリティクリニックみお産婦人科見学(米子)
	8.24	第3回セント・ルカセミナー開催（セント・ルカホール） ・・・講師 斉藤英和先生：山形大学産婦人科助教授 講師 Dr. K. Y. CHA：CHA General Hospital
	9.13	d International Workshop on Assisted Fertilization参加（*Seoul*）
	9.23	第2回「赤ちゃんがほしい」講座開催（コンパルホール）
	10. 5	第26回アルメイダ病院QC大会参加（大分）
	10.12	第2回日本MIM研究会参加（別府）
	10.19	第4回岐阜地区不妊治療症例検討会　院長講演（岐阜）
	10.26	第41回日本不妊学会九州支部会参加、発表（宮崎）
	10.29	「生殖医学の臨床実施報告」日産婦へ報告
	11. 3	第46回日本産科婦人科学会大分地方部会参加、発表（大分）
	11. 6	第41回日本不妊学会学術講演会参加（徳島）
	11.21	第27回大分市医師会医学総会参加、発表（大分）
	12. 1	「生殖医学の登録」報告
	12.12	平成8年度九州地区看護研究学会参加（鹿児島）
	12.19	セント・ルカ産婦人科クリスマス会（別府教会 三浦芳夫 牧師、Stephen Stieve宣教師）
	12.21	セント・ルカ産婦人科忘年会
	12.24	第155回Meeting開催
1997	1. 6	セント・ルカ産婦人科新年会
	2.12	院内講演会　講師 Prof. R. Upton（ミネソタ大 名誉教授）
	3. 1	セミナー「医療と社会」第21回例会参加（弘前）
	3. 6	大分県庁にて院長講演（大分）

年	月 日	行　　事
1997	3. 8	第19回大分県看護研究学会参加（大分）
	3.16	第40回産婦人科情報処理研究会参加（東京）
	3.23	第27回アルメイダ病院QC大会参加（大分）
	4. 6	第49回日本産科婦人科学会学術講演会参加（東京）
	4.11	看護協会研修会参加（大分）
	4.20	第8回日本不妊学会春季九州支部会参加、発表（福岡）
	5.24	Xth World Congress on In Vitro Fertilization and Assisted Reproduction参加（*Vancouver*）
	6.15	大分県検査技師会一般研究班研究会　院長講演（大分）
	7. 6	第47回日本産科婦人科学会大分地方部会参加、発表（別府）